

授業科目における海外派遣実績

■科目名：海外中期実習

No.	国・地域	留学先	期間	派遣	単位数	備考
1	アメリカ	AOI College of Languages	2025年8月21日～10月21日	1名	2単位	グローバル人材養成プログラム

※授業詳細は別添シラバス参照

■科目名：短期海外アクト I

No.	国・地域	派遣先	期間	派遣	単位数	備考
1	台湾	呉鳳科技大学	2025年9月7日～9月11日	9名	2単位	

※授業詳細は別添シラバス参照

授業コード	UMLA11A
授業科目名	海外中期実習
授業科目名(英)	Overseas Mid-term Training
授業形態	実習
標準履修年次	3年
単位数	2単位
担当教員名	井原 孝延

授業の概要	
授業のあらまし	当科目は、グローバル人材養成プログラムに含まれる「グローバルアドバンス」に位置付けられる実習科目である。当科目での実習実施と認められる条件は、2か月以上3か月未満の海外留学（海外協定校への留学または海外現地企業での企業実習）において事前に計画したフィールドワーク等を通じた調査活動を行うこととする。履修者はマッチングの上、十分なコミュニケーションを以て留学先を決定する。授業計画としては、前学期をかけてマッチングなど留学に向けた諸準備を行い、後学期において実習として海外留学に挑戦することとなる。
教育目標との関連	教育目標との関連 当科目の最大の目的は海外留学（インターンシップなどの企業実地実習を含む）を通して、これまで学んできた経営学の知識を生かしながら、国際ビジネスを新たな視点から概観・体験することが最大の目的である。したがってディプロマ・ポリシーの【総合・統合】に関連する。
科目の位置付け(他の科目との関連)	科目の位置付け(他の科目との関連) グローバル特講、キャリアプランニング、英語等 グローバル人材養成プログラム科目全般
受講に必要な知識・スキル(履修条件等)	グローバル人材養成プログラム参加者であり、3年次に専門演習Ⅲを履修した学生のみ受講可能

具体的な到達目標	
<p>受講者は、留学先でビジネスのみならず、現地の文化や習慣を理解し、高い英語コミュニケーションスキルを習得するために、十分な事前準備を要することになる。特に留学中に実習に参加する学生は、受け入れ企業にどれだけ貢献できるかを常に念頭に置かなければならない。つまりGiveとTakeの関係である。インターンシップ期間中、相手先から国際人材として高評価を受けられることが重要である。以下を就業体験（留学）での成果を挙げるための素養として、到達目標として掲げる。</p> <p>①英語等語学力を向上し、共同作業等に求められるツールとしての外国語を活用したコミュニケーションをとることができる。  ②国際ビジネスの現場に求められる「異文化コミュニケーション」の本質について説明できる。  ③異文化マネジメントについて理解を深め、日本（人）特有の経営（ビジネス）手法について説明できる。  ④出先国の文化風習等の日本との比較を通して、両国の違いを説明できる。</p> <p>&lt;グローバル人材養成プログラム修了優秀者要件&gt;  グローバル人材養成プログラム専用科目、グローバル人材養成プログラムを設置する科目、グローバル人材養成プログラム指定科目の単位を修得し、修得科目のGPAが3.00以上であること。  &lt;グローバル人材養成プログラム修了優秀者要件&gt;  グローバル人材養成プログラム専用科目、グローバル人材養成プログラムを設置する科目、グローバル人材養成プログラム指定科目の単位を修得し、修得科目のGPAが3.00以上であること。</p>	

授業の内容(テーマ、授業内容、予習・復習の内容および方法)	
第1回	科目趣旨および実習目的の説明
第2回	第2回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第3回	第3回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第4回	第4回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第5回	第5回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第6回	第6回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第7回	第7回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第8回	第8回

	受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第9回	第9回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第10回	第10回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第11回	第11回 受け入れ先と調整、学生と受け入れ先とのコミュニケーション
第12回	第12回 異文化コミュニケーションについて考える
第13回	第13回 調査、検討
第14回	第14回 受け入れ先決定後の関連調査、 留学計画発表
第15回	第15回 後学期において2か月以上3か月未満の海外実習を実施。 帰国後はそれぞれの体験報告を課すため、実習実施中から十分に準備のこと。

授業時間外の活動の有・無と内容

専門演習Ⅲグローバルゼミとの連動が想定される。また、海外企業との遠隔接続においては、各国との時差を考慮し、授業外の時間を使った遠隔接続も想定される。

テキスト・参考書

テキスト	特になし（受け入れ先地域のインターネット情報）
参考書	

成績評価の基準及び評価方法等

評価基準	海外実習中に課す報告書（実習中は週一回）および海外実習終了後の報告内容から以下を評価する 1. グローバル人材としての教養、ビジネスマナーなどの習得具合 2. 英語等語学力の向上 3. グローバルビジネスの理解度
評価方法・割合	渡航前の計画発表（英語でのプレゼン含む）30% 帰国後の報告 70%

その他

- ・参加者は2年次の専門演習Ⅱのゼミ選択の際、グローバルゼミを選択した者に限る。
- ・参加者は、実習実施期間が決定した際、速やかに青森中央学院大学が定める手続きをとること。
- ・実習先を海外協定校とする際、現地での授業選択を語学だけではなく、専門科目を必ず含むこと。
- ・大学TEAMS をコミュニケーション、外部との対話で活用すること。
- ・それぞれの実習開始時期およびその期間によって、準備期間が異なることを理解すること。特に実習期間が年度早期に設定される場合、授業等以外にも時間を費やし、事前準備を行うこと。
- ・帰国後は実習参加者全員にプレゼンテーションを課すので対応すること。
- ・当該科目を担当する教員は、長年の海外駐在経験を有し、国際ビジネスにおける様々な知見、経験を持つ。

授業コード	UMLA02A
授業科目名	短期海外アクト I
授業科目名 (英)	Active Learning I (Global Search)
授業形態	演習
標準履修年次	2年
単位数	2単位
担当教員名	中村 智行
授業の概要	
授業のあらまし	1923年に発生した「関東大震災」から100年が経過し、今後、首都直下地震の可能性が指摘されている。本演習では、関東大震災からの震災復興を学ぶとともに、地震大国である台湾の「防災対策や震災遺構」や「台湾協定校」等の視察を通して、台湾における防災対策や防災ツーリズムの実態を学び、日本におけるその活用等について考察していく（夏休み（9月上旬予定）の集中演習です）。
教育目標との関連	ディプロマ・ポリシーの「態度・志向（3）」と「総合・統合」に強く関連する。
科目の位置付け（他の科目との関連）	この科目は「地域探求・グローバル人材育成」科目であり、履修モデル「ビジネス実践型」の選択指定科目である。
受講に必要な知識・スキル（履修条件等）	日本や国外の災害や防災、海外でのフィールドワークに興味・関心があることが望ましい。また、履修・単位取得にあたって国外でのフィールドワークが必須となるため、5月中旬に「パスポート」の取得（自費）と渡航費（自費）が必要になります。
具体的な到達目標	
①「災害伝承」について説明し、日本各地の「震災遺構」について列挙することができる（事前レポート） ②日本の過去の災害について調べ、「関東大震災」について述べるができる（事前レポート） ③台湾の「震災遺構」が「観光資源」として活用されるまでの経緯を説明することができる（期末レポート） ④台湾における「防災対策」や「防災ツーリズム」の事例から、日本での活用等について検討することができる（期末レポート）	
授業の内容(テーマ、授業内容、予習・復習の内容および方法)	
第1回	「日本と世界の災害」 ①本演習の進め方 ②受講生の相互理解 ③日本と世界の災害ほか (予習) 過去の災害の経験等について思いだしておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第2回	「災害伝承と震災遺構」 ①災害伝承とは ②震災遺構とは ③各地の震災遺構ほか (予習) 災害伝承や震災遺構について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第3回	「関東フィールドワーク」 ①「関東大震災からの復興状況など」ほか (予習) 関東大震災について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第4回	「台湾フィールドワーク①」 ①台湾・嘉義県「呉鳳科技大学」ほか (予習) 921台湾地震について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第5回	「台湾フィールドワーク②」 ①台湾・嘉義県「呉鳳科技大学」ほか (予習) 921台湾地震について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第6回	「台湾フィールドワーク③」 ①台湾・嘉義県「呉鳳科技大学」ほか (予習) 921台湾地震について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第7回	「台湾フィールドワーク④」 ①台湾・花蓮県「山間地の震災遺構と防災対策」ほか (予習) 台湾花蓮地震について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第8回	「台湾フィールドワーク⑤」 ①台湾・花蓮県「沿岸部の津波対策」ほか (予習) 台湾花蓮地震について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第9回	「台湾フィールドワーク⑥」 ①台湾・新北市「山間地の震災遺構」ほか (予習) 台湾山間地の震災遺構について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第10回	「台湾フィールドワーク⑦」 ①台湾・新北市「山間地の防災対策」ほか (予習) 台湾山間地の防災対策について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第11回	「台湾フィールドワーク⑧」 ①台湾・台北市「都市の防災対策」ほか

	(予習) 台北の過去の地震被害について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第12回	「台湾フィールドワーク⑨」 ①台湾・台北市「超高層ビル等の耐震対策」ほか (予習) 台湾の建造物の耐震対策について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第13回	「台湾フィールドワーク⑩」 ①台湾・台北市「超高層ビル等の耐震対策」ほか (予習) 台湾の建造物の耐震対策について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第14回	「台湾の防災対策と震災遺構の実態と課題」 ①台湾の防災対策と震災遺構の実態と課題ほか (予習) 防災対策と震災遺構の実態と課題について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
第15回	「日本の防災対策と震災遺構の活用についての考察」 ①日本の防災対策と震災遺構の活用についての考察ほか (予習) 防災対策と防災ツーリズムの活用について調べておくこと (約45分) (復習) 演習内容をノート等にまとめておくこと (約45分)
授業時間外の活動の有・無と内容	
夏季休暇(9月上旬予定)に「台湾」で4泊5日程度のフィールドワーク(自費負担あり)を実施するので留意のうえ履修すること。	
テキスト・参考書	
テキスト	なし(講義のスライドデータをTeamsで共有できるようにします)
参考書	なし
成績評価の基準及び評価方法等	
評価基準	事前学習と期末レポートを以下の観点から評価する。 事前学習は「日本と台湾の震災遺構」や「関東大震災」について個人で学習することとします。期末レポートは演習終了後に「台湾における防災対策と観光資源に関するレポート」を1週間以内に提出することとします。 ①日本や台湾の「震災遺構」について列挙することができる ②「関東大震災」の復興の特徴などについて述べるができる ③台湾の「震災遺構」等が「観光資源」となった経緯を説明することができる ④台湾の防災対策や防災ツーリズムから日本での活用について提案することができる
評価方法・割合	事前学習・受講態度等(60%)、期末レポートの得点(40%)の合計得点を素点として評価する。
その他	
履修希望者に対して「事前ガイダンス」を実施します。履修者は8名を上限に面談等をふまえ選抜します(自費負担あり)。フィールドワークの場所が変更になる場合もあります。感染症等の流行や国外情勢等により台湾へ渡航ができない場合には「開講」できない場合があるので留意すること。 オフィスアワーは火曜日10:30~12:00本部棟6階077研究室	